

胸張って言える「努力の達人」に

種子島中2年

赤木 梓音

努力の達人になりたい。どんな結果が出ても、「やり切ったんだ」と胸を張って言えるようになりたい。自分が報われるだけでなく、支えてくれる人のためにもなるような努力を続けたい。

私は陸上競技でハードルをしている。はつきり言って、才能はないと思う。でもハードルが好きだ。コーチが自分に熱心に教えてくれるのがとてもうれしい。

今シーズン、私には大

きな目標があった。九州大会に出場することだ。私にとってこの目標は、

努力するための大きな原動力になっていた。そして、たくさん努力したつもりだった。しかし目標を達成することはできなかった。

悔しくて、苦しかった。でも、つらい日々が教えてくれた。悔しいのなら、苦しいのなら、それは努力が足りない証し。結果にかかわらず、「やり切った」と思えるのが努力の達人なのだ。

来シーズンの目標も

ちろん九州大会出場。強くなりたい。支えてくれるすべての人に恩返しをしたい。だから私は、努力の達人になりたい。

(西之表市)